

正常肺と間質性肺炎のパラフィン包埋組織サンプルの 系統的 microCT スキャンに関する検討

間質性肺炎は診断が不確実で治療選択肢が限られている病気です。中でも特発性肺線維症は平均予後が3年と言われており、その病態の解明はとても重要です。

イギリスのサウサンプトン大学にある 3D マイクロ CT で間質性肺炎の患者さんの外科的肺生検標本を撮像すると、任意の位置や方向でバーチャル再構成が可能となり、標本を傷つけたり変化させずに、間質性肺炎の成り立ちなどを明らかにすることが可能となります。

そこで、2009年1月～2011年4月に公立陶生病院で間質性肺炎の診断のために外科的肺生検を行って診断された患者さんの肺標本を、イギリスのサウサンプトン大学のマイクロCTで撮像します。また肺の線維化と関連のある病理学的特徴や遺伝子の特徴を、マイクロCT画像と比較します。研究が終了した肺組織は当院へ返還されます。また上記患者さんの診療情報を収集して解析を行います。

この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・古川大記（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 古川 大記